

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顯示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

①ウェブと人材交流を活用した研修を行い、人材の活性化を図る。②ズームなどによる保育の見える化を徹底し、保護者の方針理解を促進する。③アワードバンケットの活用により、研究心・人間性向上心の活性化を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)	取り組み状況
① 保護者の方針理解の促進	新型コロナウイルス感染症の対応について、参観の中止や行事の人数制限、実施などの対応を行い、感染者発生時の対応についても、行政判断にも変化のある中、園の判断のもとすすめてきたが、PTA役員様との連携のもと、ご理解、ご協力いただいで混乱なくすすめられた。
② デイタイムにおける、選択あそびの発展	クラス保育中心の園生活から、プレチームの選択あそび時間のシステムが、園児にも職員にも定着し、園での活動スタイルが大きく変化した。園児にとっては、好きな遊びを選択して夢中になって遊べる時間は自己の満足感を高め、クラス保育のカリキュラムのある活動にも、意欲と集中力の高まりに良い効果が表している。次年度は、プレタイムの活動内容の充実と、園外活動も取り入れた新たな展開を進めていきたい。
③ 職員の人間性向上	中堅研修、管理職研修などの機会により、職員間の連携方法を学ぶ事ができ、人材育成、職員間連携に対して、個々の考え方にも新たな考え、新たな方法を取り入れる姿勢が見られるようになった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保護者の方針理解の促進の為、zoomを用いたウェブ配信を定期的に行い、保護者に園内活動を視聴していただく事で、今年度から開始したプレチームの活動とクラス保育の両輪の実態や、クラス保育のきめ細やかさ、園内で子ども達が活発に生き生きと過ごしている実情をご理解いただけたと感じる。また、コロナ渦における活動の縮小(参観、遠足の中止など)を行ったが、園内の充実した保育の様子を見ていただく事で園の活動に対してのご理解につながる方法となった。主要行事は執行でき、園児にとって貴重な体験機会となり、保護者様からも喜ばれていた。コロナ渦で保護者様の考え方や不安は様々であったが、教育保育と就労支援に重点をおいた園の姿勢をご理解いただいた。今後もさらに方針理解の促進に努めていく。

5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題	具体的な取り組み方法
① 職員の質の向上	職員一人一人が確実に伸びるように、研修、ミーティングを行う。 (①子どもが楽しく育っていけるような体験が増える保育を行う為に、先生の姿勢を育てる②喜び、体験を与える保育計画)
② 挨拶の体得(職員・園児)	「ありがとう」「おはようございます」など、職員全員が繰り返していく環境により、園児にも体得させる。言われたら返すことがしっかり出来る子どもに育てて行くため、具体的な目標を立ててすすめていく。
③	
④	

6. 学校関係者の評価

今年度も昨年に続きコロナ渦に見舞われたが、適切な手段で一定程度克服され、学校関係者にも正確に報告され、その他の感染に対しても適切な処理をされ報告されたことに理事会・評議会において高く評価に値される。・人材においては、離職者の少なさ、適切な相当数の就職と、適切に行われていると思われ。職場の意欲を持たせるアワードバンケットを活用し研究心・人間性向上・人間関係の活性化を図るなど優れた方法とみられる。・保護者に対しては、PTA総会・ウェブ・ホームページなどを活用し安全・安心の精神を徹底的に追求し、すべての情報を開示し、明朗な経営、教育の向上、肉体・精神の健康的成長をサポートする体制が整っていると評価される。・経営に関して、該当年齢の少子化により全ての学校に課せられる問題ではあるが、充実した教育内容の先鋭化により克服しなければならないと思われる。この問題は現行のスタッフ・経営陣が示された改善の取り組みなどに期待し、理事・評議員共々協力して、より健全で安心される経営に進むことを期待する。このような内容を表示されたことにより理事会・評議会は今後も全てにおいて確認・提言をしつつ共に進んでいきたいと思う。 令和4年3月22日 理事会